

---

## 第6回 河口湖整備検討協議会 議事概要

日時 令和7年3月24日(火)14時00分～15時30分

場所 富士吉田合同庁舎2階大会議室

議題 前回までの振り返り

ヨシ刈り及び自然環境調査(臭気関連調査、動植物調査)の状況について  
今後の方針について

出席者

専門分野等	氏名	所属
有識者	輿水 達司	山梨県立大学特任教授
〃	篠田 授樹	地域自然財産研究所 代表
〃	荒井 正春	河口湖フィールドセンター 元センター長
〃	山本 真也	富士山科学研究所 研究員
地元	山下 利夫	河口湖治水委員会 会長
漁業	外川 新吉	河口湖漁業協同組合 総務理事
〃	古屋 清晴	河口湖漁業協同組合 専務理事
富士河口湖町	渡辺 正子	富士河口湖町 副町長
山梨県	山川 秀人	山梨県県土整備部治水課 課長
オブザーバー	齋藤 明光	環境省 富士箱根伊豆国立公園管理事務所 富士五湖管理官事務所 国立公園管理官

### 1. 前回までの振り返り

- ・ 事務局より、これまでの河口湖整備検討協議会の実施状況について説明を行った。

### 2. ヨシ刈り及び自然環境調査の状況について

- ・ 事務局より R4年、R5年、R6年に実施したヨシ刈りの実施状況および臭気関連調査結果、動植物調査結果を報告した。
- ・ 臭気関連調査結果では、引き続きデータの蓄積やヨシ刈りによる効果検証、臭気の発生要因の分析が必要であるものの、現況の検討箇所では顕著な臭気が発生するリスクは低いと考えられる。
- ・ 動植物調査では、ヨシ刈りに伴う動植物の生育・生息環境に顕著な影響は確認されなかった。また、植物の重要種が確認されたことから、山梨県内においても貴重な環境が維持さ

---

れていると言える。一方、アレチウリといった外来種の繁茂も確認されており、今後の動植物の生育・生息状況や環境変化に注視する必要がある。

- ・ 自然環境調査結果から、ヨシ刈りを継続していくことが現況の環境を保全するうえで重要であると考えられる。ただし、ヨシ帯の存在による景観の変化や有機物の堆積、動植物の生育・生息環境の創出は、ヨシ刈りを通してうまくバランスを取っていく必要がある。

### 3. 今後の方針について

- ・ 今後の協議会は、書面開催を基本とし、必要に応じて会議形式での開催を検討する。
- ・ ヨシ刈りの効果を数値化するために、調査方法、調査内容について引き続き検討を進める。また、動植物の生育・生息状況の把握も含め、調査を継続して実施する。
- ・ ヨシ刈りは、今後も継続していく方針とする。なお、その範囲等を変更する場合には、事前に関係機関と協議し、合意を得たうえで進めるものとする。
- ・ 八木崎地区は、山梨県の中でも有数の重要植物が分布する区域であり、今後の維持管理や整備においては、重要植物に配慮する内容とする。

### 4. その他

- ・ 蓄積された調査結果については、科学的に利用できる形式で公表することを検討する。